

(仮称)上島町資料館基本構想

令和4年3月

上島町教育委員会

はじめに

瀬戸内海は、世界でも稀な多島海であり、島と海が変化に富んだ美しい景観を形作っています。島々は、古くから発達した海上交通によって、さまざまな地域と繋がり、その歴史や文化に多様性が生まれました。

芸予諸島に属する上島町は、上島諸島および魚島群島で構成され、瀬戸内海のほぼ中央に位置しています。平成16年10月に、それぞれ独自の歴史や文化を育んできた弓削町・生名村・岩城村・魚島村の4町村が合併して誕生しました。それぞれの島には、その成り立ちを物語る歴史文化遺産が数多く眠っています。

令和2年度に上島町が策定した「上島町第2次総合計画（後期基本計画）」では、地域の歴史・文化の魅力を町内外に発信するために、資料館施設の設置を課題としています。さらに、令和3年10月には、中世荘園遺跡「弓削島荘遺跡」が、上島町で初めての国指定史跡となりました。スポットライトを浴びた今、地域が一体となって町にのこる歴史・文化を深く知り、将来に継承していく環境整備を開始することがますます望まれます。

本構想は、上島町の誇るべき歴史・文化をだれもが学ぶことができ、また地域づくりに寄与するような「上島町にふさわしい資料館」を創造するために策定するものです。地域住民にとって親しみやすく、だれもが利用できる資料館の整備を目指します。



上島町全景

目 次

	頁
第1章 （仮称）上島町資料館基本構想策定の背景・・・・・・・・・・	1
1. 上島町の歴史・文化について・・・・・・・・・・	1
2. 上島町が抱える課題・・・・・・・・・・	2
3. 現在の展示・収蔵施設等の状況・・・・・・・・・・	4
第2章 （仮称）上島町資料館の目指す姿・・・・・・・・・・	8
1. 基本理念・・・・・・・・・・	8
2. 基本方針・・・・・・・・・・	8

第1章 (仮称) 上島町資料館基本構想策定の背景

1. 上島町の歴史・文化について

芸予諸島に属する上島諸島と魚島群島によって構成される上島町は、周辺は瀬戸内海国立公園区域内にあり、県指定名勝「法王ヶ原」に代表される美しい白砂青松の風光明媚な景勝地となっています。瀬戸内海の離島という地理的背景から、製塩業、漁業、海運業、造船業が発達し、温暖な気候を生かしたミカンやレモンなどの柑橘農業が盛んに行われてきました。



製塩業



漁業



柑橘農業

とくに製塩の歴史は古く、町内の島々で古代の製塩土器が見つかっています。佐島にある宮ノ浦遺跡は、古墳時代から中世にかけて製塩活動が行われた事が明らかになりつつあり、環瀬戸内地域における最古級となる縄文土器も発見されています。

ユネスコ「世界の記憶」に登録されている『東寺百合文書』に多くの記述が遺されている中世荘園の弓削島荘は、「塩の荘園」として著名であり、令和3年10月には、関連する7か所の遺跡が、「弓削島荘遺跡」として国指定史跡に指定さ



国指定史跡「弓削島荘遺跡」



製塩遺跡「大田林の塩浜」



製塩遺跡「高浜八幡神社」

れました。同じく中世には、佐島・生名島・岩城島が石清水八幡宮領の荘園として、塩を納めていた歴史を有しています。年貢塩は、弓削島や岩城島などの島民によって海上輸送され、やがては同じ人物が専門的に輸送に当たるなど、海運業が発展する礎が出来上がりました。江戸時代になると、松山藩や今治藩に属し、海上交通の要衝として発展し、岩城島は松山藩東端の重要港として整備され、三浦邸に島本陣（現在は岩城郷土館）が置かれました。

明治に入ると、海運界において大きな役割を果たす上島町出身の人物が数多く登場しました。そして、明治34年には弓削海員学校（現在の国立弓削商船高等専門学校）が設置され、翌年には弓削、岩城、生名、魚島、東伯方、西伯方の6か村の組合立弓削甲種商船学校に改称し、多くの人材が海運界で活躍してきました。

先人が守り伝えてきた豊かな歴史や文化、自然や産業などの地域資源を次の世代へ守り伝えるため、上島町教育委員会では地域住民を対象とした文化財講座や調査成果報告会を行ってきました。また、大学や地域住民の協力による弓削島鎌田地区における製塩体験会や、小学生を対象とした民俗資料体験授業など、大人も子どもも町の歴史・文化に触れることができる事業を開催してきました。



文化財講座



製塩体験会



民俗資料体験授業

2. 上島町が抱える課題

(1) 上島町の歴史・文化学習の拠点となる施設の未整備

旧4町村で所有していた考古資料や民具などの歴史・文化資料は、町村合併以降も各島にある郷土資料室や収蔵施設において大切に保存・管理されています。このうち、岩城郷土館は常時開放していますが、その他の施設については常駐する職員が居らず普段は閉鎖しており、希望者のみに開放する形をとっています。

これらの施設は、町内の文化財の周知や学びの場としての機能を持っておらず、施設間の連携も行われていないため、上島町全体の歴史を通史的に学習することができず、学習希望者に対応することがきわめて困難です。

(2) 上島町の豊かな歴史・文化資料を収蔵する設備の未整備

平成 23 年度から継続的に調査が行われている佐島の宮ノ浦遺跡や、平成 28 年度から令和 2 年度にかけて行われた弓削島荘総合調査など、近年の発掘調査の成果により考古資料等が増加しており、今後も調査に伴う資料はさらに増加していくものと考えられます。現在、町で保管している歴史・文化資料は、佐島体育館や、教育委員会事務所の一室、廊下の空きスペースを利用しているのが現状であり、資料を収蔵するスペースにも不足が生じています。

(3) 歴史・文化資料を地域振興や観光振興に活用できる拠点施設の未整備

上島町の豊かな歴史・文化資料は地域の資源として地域づくりに活用されるべきものです。しかし、現在は、歴史や文化について町民と一緒に議論したり、活動するための拠り所が全くなく、十分活用できているとはいえません。このことは、町外からの観光客に対してもおなじであり、町内の歴史・文化資料を紹介できる施設がないため、上島町の魅力であるはずの豊かな歴史や文化を町内外に発信することができていません。

上島町では、「上島町第 2 次総合計画（後期基本計画）」の中で、「地域文化の継承と創造」について、文化財の活用を積極的に図り、将来に継承していくために資料館施設を設置することを構想しています。町が抱える課題を解決するために、資料館の設置について検討する必要があります。

住民や来町者にとって歴史・文化学習の拠点となる

資料の適切な保存・管理を可能にする収蔵庫を備える

地域振興や観光振興に歴史・文化資料を活用できる

上島町資料館に求められる姿

3. 現在の展示・収蔵施設等の状況



資料室・収蔵施設の位置

(1) せとうち交流館（上島町弓削下弓削 1037 番地 2）

- ・平成 16 年竣工 鉄骨造 1 階建て
- ・収蔵資料…無し

町の中心的位置に立地している交流の拠点となる施設です。弓削港からほど近く、生名島、岩城島、魚島など町の他の島からの交通の便が良い事も特徴です。企画展示を行う際は本施設の展示室を利用しています。展示室は住民も使用するため、常設展示を開設することはできません。

(2) 上島町教育委員会事務所・佐島体育館（上島町弓削佐島 583 番地）

- ・事務所（昭和 63 年竣工 鉄骨造 2 階建て 事務所は 2 階部分）
- ・収蔵資料（事務所・体育館の合計）…考古資料 50 箱 民俗資料約 3,000 点

弓削地区における収蔵施設であり、教育委員会事務所には文化財整理室を備えています。そのため、文化財業務の中心となっていますが、事務所・体育館共に各島の歴史・文化資料の保管に加え、近年の発掘調査による資料の増加により収蔵スペースが不足しています。また、展示等を開設するスペースもありません。

(3) 生名郷土資料室（上島町生名 1885 番地）

- ・昭和 56 年竣工 鉄骨造 3 階建て
- ・収蔵資料…歴史資料 1 箱 考古資料 1 箱 民俗資料約 100 点
自然系標本 2 点

生名開発総合センター内の一室にあり、町の玄関口となる立石港の近くに立地しています。耐震補強工事を行っており、センター内には空き部屋が多いため収蔵室等に使用できる可能性があります。町の行事等の際には住民が利用します。

(4) 岩城郷土館（上島町岩城 1364 番地 2）

- ・昭和 57 年開館 木造 1 階建て
- ・収蔵資料…歴史資料約 50 点

伊予松山藩の島本陣が置かれた三浦邸の屋敷の一部を修復して郷土館として活用した施設で、建物は町指定文化財に指定されています。岩城港から近い交通の便は良いです。現在は展示室としている部屋以外にも空き部屋が存在するため展示室の拡張は可能ですが、収蔵施設は併設されていません。

(5) 旧岩城保育所（上島町岩城 2263 番地 2）

- ・昭和 48 年竣工 鉄骨造 1 階建て
- ・収蔵資料…民俗資料約 400 点

岩城保育所の新設によって使用されなくなった建物を岩城関係資料の収蔵庫として使用しています。老朽化が著しく、施設の再活用は不可能です。

(6) 魚島郷土資料室 (上島町魚島一番耕地 1362 番地 1)

- ・昭和 58 年竣工 鉄骨造 5 階建て
- ・収蔵資料…歴史資料 10 箱 考古資料 5 箱 民俗資料約 500 点
自然系標本 10 点

魚島港棧橋の正面にある魚島開発総合センター内にあり、展示室兼収蔵室として使用しています。

これら施設は、常駐職員の不在や、収蔵スペースの不足により、その役割が十分に機能していないものもあります。令和 3 年度末に岩城橋が開通し、町内の主要な島が架橋されて直線的に繋がったことも踏まえて、各地に分散している施設の活用について、機能の分担・連携などを検討する必要があります。



せとうち交流館（企画展示の時のみ使用）



上島町教育委員会事務所



佐島体育館（2階）



生名郷土資料室（生名開発総合センター）



岩城郷土館外観



岩城郷土館資料展示室



旧岩城保育所



魚島郷土資料室
（魚島開発総合センター）

第2章 (仮称) 上島町資料館の目指す姿

1. 基本理念

～「歴史・文化と共存できるまちづくり」の拠点となる資料館～

住民や国内外からの訪問者、学校団体などの多様な利用者が資料館を拠点として交流を行い、協働による学習や活動を行います。そして、上島町の特徴である「海・島・塩」に関する歴史や文化の新たな魅力を発見し、価値の創出を通じて、上島町に対する愛着を持つ心を育みます。

2. 基本方針

(1) 地域住民の交流拠点となって上島町の歴史や文化を学習できる資料館

上島町の歴史・文化を学習する地域住民にとって「いつでもふるさとを確認できる場所」「上島町を知ることができる場所」として学習や活動を支援し、子どもも大人も親しみやすく利用しやすい資料館の整備を目指します。

(2) フィールドミュージアムの拠点としての資料館

町内の島々は、快速船や島間を架橋する「ゆめしま海道」によって回遊することができます。この特徴を活かして、観光部局等と連携しながら、サイクリングや快速船などの交通機関の利用を促し、町内にある史跡や名勝などの文化財や自然、町並み、寺院や神社、関連する町内施設などへ回遊できる「地域まるごと資料館」として学習できる環境を整備します。

(3) 地域住民と一体となって造りあげていく資料館

利用者が史跡を回遊する際のガイドや、学習の支援を行うことができる資料館支援者を募集します。また、支援者を対象とした学芸員による講習会や、支援者が行う企画の援助など、活動を継続して行うことができるよう、育成環境を整備することにより、学芸員と地域住民が協働して資料館を作り上げていく体制

を整えます。

(4) 上島町の歴史や文化にゆかりのある資料を収集・保存し、調査や研究を行うことができる資料館

上島町の歴史や文化、自然に関する資料を積極的に収集し、町民の財産として未来にわたって継承するために適切に保存することができる防災機能や空調機能などを備えた収蔵設備を整備します。また、利用者や大学機関などと連携して調査や研究を行い、上島町の新たな価値を創出し、町の魅力を高めます。

(5) 保存する資料を展示や教育普及活動に活用することができる資料館

上島町の歴史や文化、自然などに関する資料を公開し、通史的に学習することができる常設展示を設置します。また、町内の学校と連携して、資料館が保存・管理している資料の情報提供を行い、資料の貸し出しや出前授業など、子どもが学習することができる環境を整備します。

(6) 地域の情報を集約・公開・発信することができる資料館

資料館では、上島町の歴史や文化、自然などに関連した情報を積極的に収集し、データベース化するなどして公開します。また、町の産業や観光に関する地域の情報も広く収集し、インターネットなどを通じて町の魅力を町内外に発信します。

【参 考】

1. 上島町資料館基本構想策定委員会委員名簿

氏 名	職 名	専門分野	備 考
村上 恭通	愛媛大学アジア古代産業考古学研究センター センター長	考古学	委員長
濱田 善仁	上島町文化財保護審議会 会長		副委員長
井上 淳	愛媛県歴史文化博物館 学芸課長	文献史学	
高嶋 賢二	伊方町町見郷土館 館長 主任学芸員	民俗学	
村上 寛仁	上島町文化財保護審議会 委員		
中村 一義	上島町文化財保護審議会 副会長		

2. 上島町資料館基本構想策定委員会検討経過

委員会	概 要
第1回 (令和2年9月30日)	<ul style="list-style-type: none">・委員長及び副委員長の選出について・上島町資料館基本構想策定に向けての取り組みとスケジュールについて・上島町資料館基本構想の構成について
第2回 (令和3年8月10日)	<ul style="list-style-type: none">・上島町資料館基本構想案について・視察研修報告 町見郷土館（伊方町） 東温市歴史民俗資料館収蔵庫（東温市）
第3回 (令和4年3月10日)	<ul style="list-style-type: none">・上島町資料館基本構想案の総括